

ICT機器の導入事例の報告

株式会社未来パーク 子ども支援室みらい益城教室（放課後等デイサービス）

課題

支援記録⇒手書きで行っている。細やかに記録しようとすると、とても時間がかかり、文章を書くのが苦手な支援員は、一人分の1日分でも30分以上かかる場合もある。
保護者との面談⇒言葉で説明しようとすると、とても時間がかかってしまう。
支援会議⇒活動の様子を職員で共有しながら支援を進めていくことが大切。しかし子どもの様子を伝える時に言葉だけの説明では「伝わらない・時間がかかる」という悩みを抱えている。

ICT機器 導入

成果

支援記録⇒パソコンで記入することで、音声入力機能を活用することができるようになった。書くこと、入力することが苦手な職員も音声入力機能を活用することで、所要時間の効率化ができた。
保護者との面談⇒パソコンやタブレットで、録画した子どもの活動の様子を保護者に提示することで、以前と現在の変化をより分かりやすく確認することができるようになった。実際の様子を見せることで、言葉だけの説明より短時間で効率的に伝えることができ、説得力も大きくなった。
支援会議⇒職員間で意見を出し合う際に、パソコンに保存している動画や写真を見ながら話し合うことで子どもの課題の共有や支援方法の共有が図れるようになった。

パソコン
タブレット



業務効率化のステップ

①導入前の検討状況

- スタッフに対し、導入前にタブレット、パソコンをどれくらい使用できるのか確認を行った。
- 導入後に得られるメリット、デメリットについてミーティングにて共有。

②導入内容（詳細）

- タブレットやパソコンを使用した実際の業務に関するデモンストレーションを職員間で共有する。
- 利用者、保護者へ写真や動画を撮影、使用することに対する同意確認を行った。

③導入における問題点の洗い出し・それに伴う改善など

- タブレット、パソコンのスキル向上の進捗はスタッフによって異なるので、課題が出た場合、ヒアリング、フォローを行った。
- 出た課題、改善策については、ミーティングにて内容共有。共有事項を実施後、どうだったかもミーティングにて共有。

職員の声など

【良かった点】

- 利用児の様子を写真や動画で確認することができ、利用児の状態や支援の効果などを把握しやすくなった。
- スタッフ、利用者、保護者間での情報の共有がしやすくなった。
- 端末の使用待ち時間が無くなった。
- 事務スペース以外の場所でも送迎の時間や配車予定、欠席者の確認がしやすくなった。
- 個人やグループでの活動の様子を写真や動画で記録に残すことでミーティングの際に利用児の様子や支援の状況を確認しながら振り返ることができ、情報共有や支援の統一がしやすくなった。

【悪かった点】

- 総合的には良いが、記録のために撮影をするスタッフが必要になるため、それを事前に決めておく必要がある。

【今後の課題・その他】

- 整備した環境が有効に活用できるよう、端末使用の講習等を継続して行っていく必要がある。
- 業務効率を向上させるためにホーム画面の配置の工夫、マニュアルのブラッシュアップを行う必要がある。